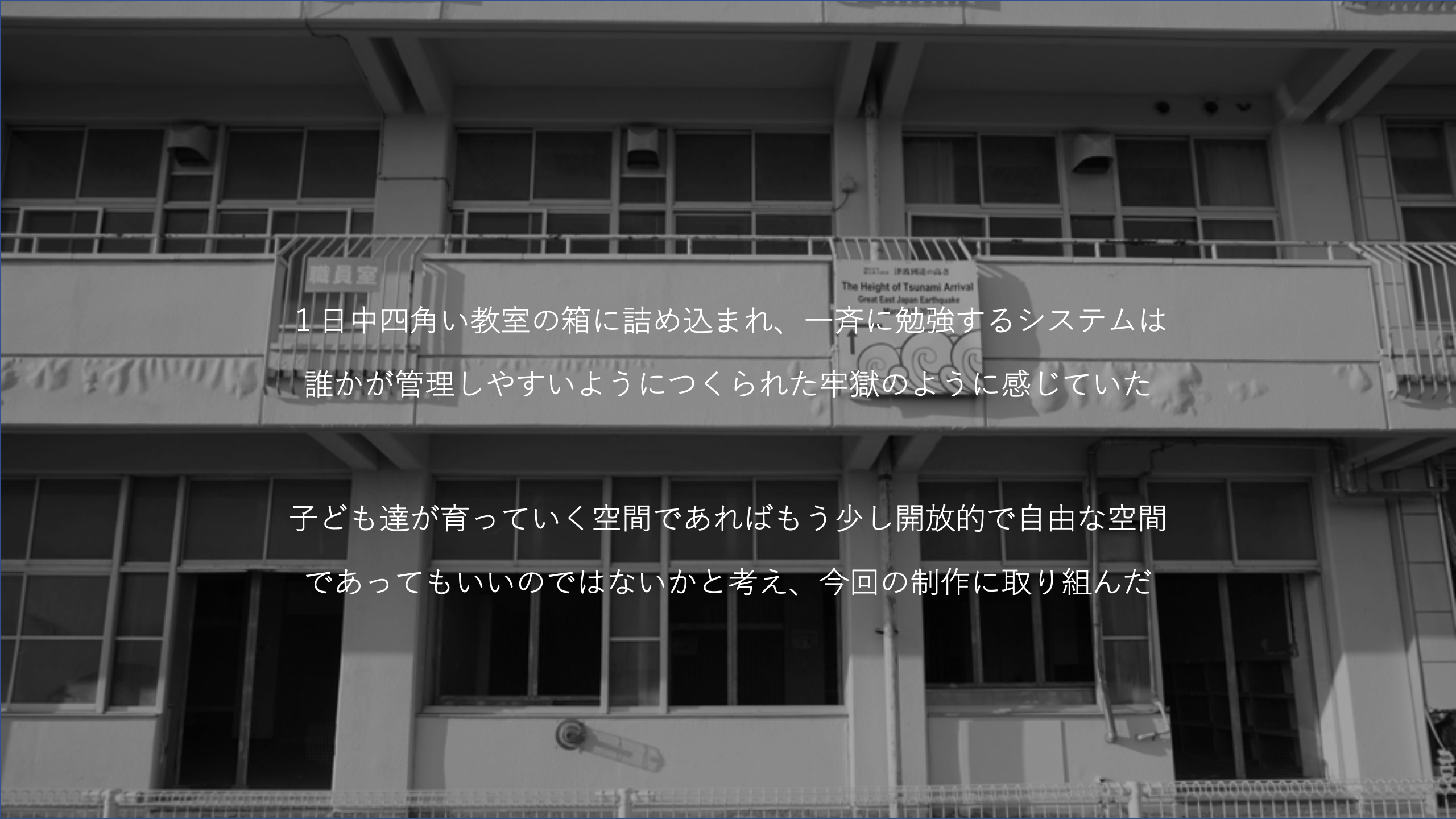


私は昔から学校建築に対しある違和感を覚えていた

グリッド状に整備された教室が強い秩序で

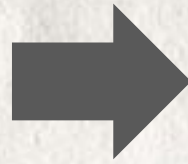
統制されているように感じたからである



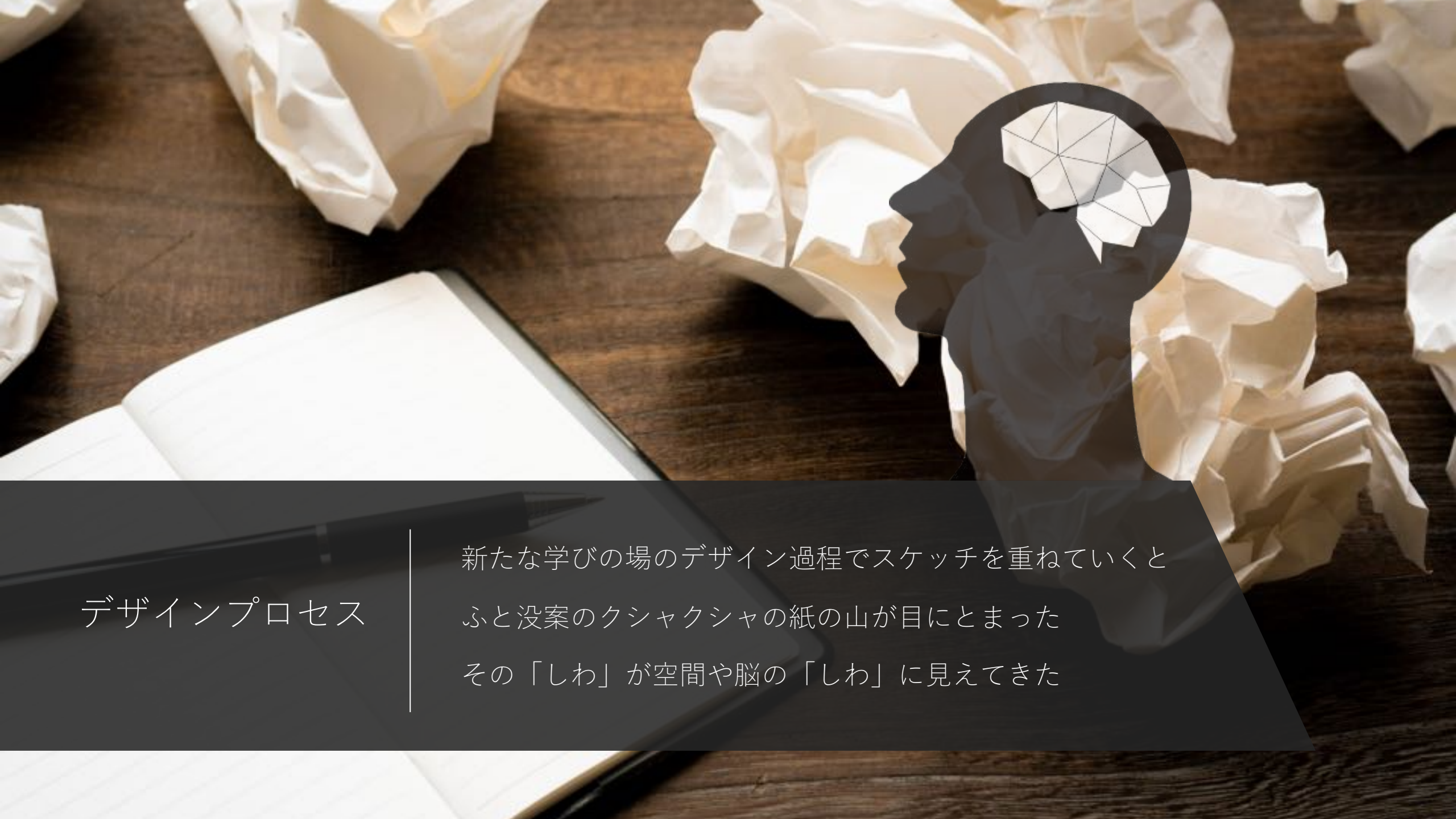
1 日中四角い教室の箱に詰め込まれ、一斉に勉強するシステムは
誰かが管理しやすいようにつくられた牢獄のように感じていた

子ども達が育っていく空間であればもう少し開放的で自由な空間
であってもいいのではないかと考え、今回の制作に取り組んだ

モノづくりからコトづくりへ

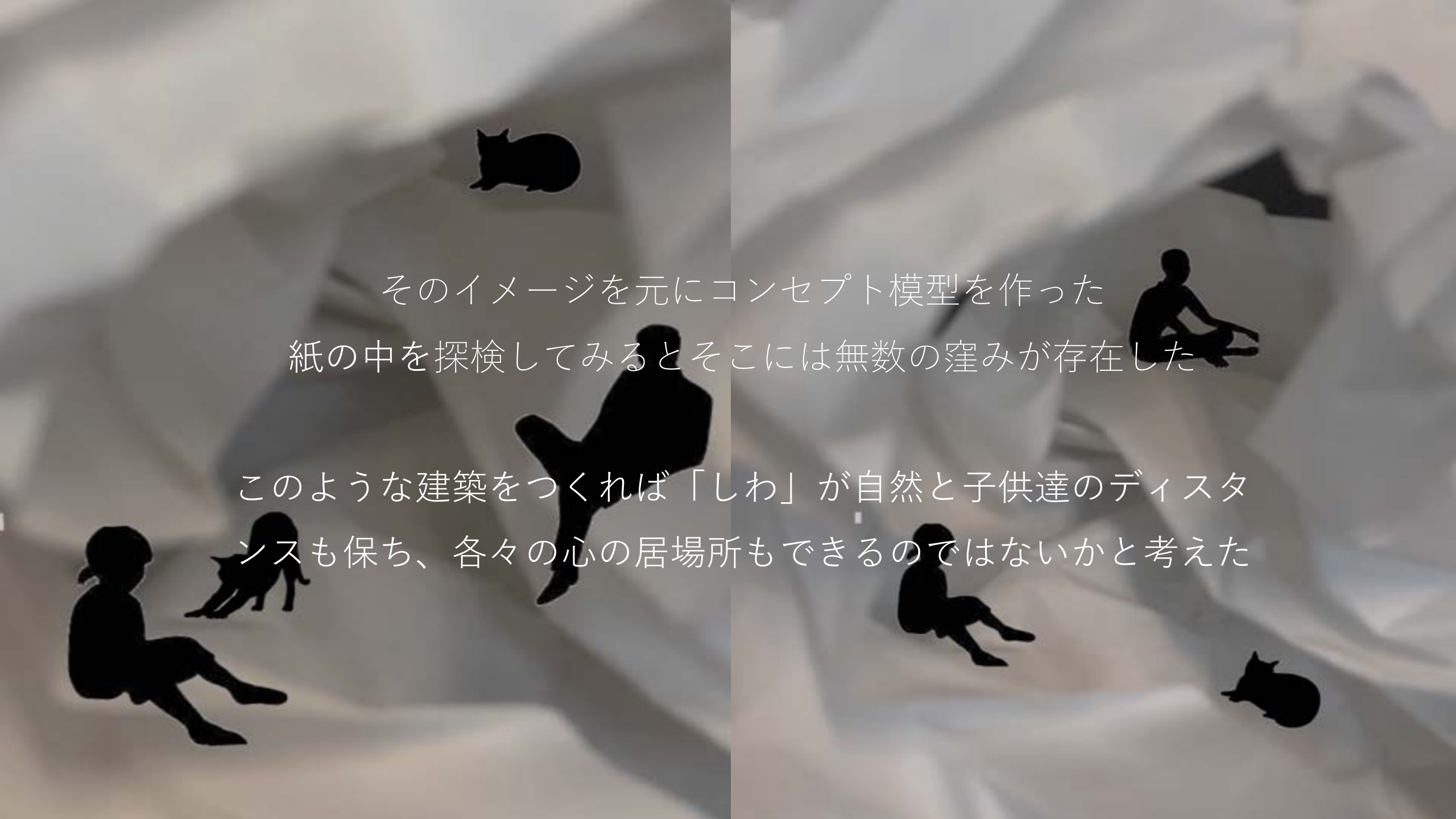


画一的な学校建築はものづくり一辺倒の日本の経済成長と呼応していた
工業化社会から情報化社会へさらにクリエイティブ社会へと変化してきている現代では
これからの学ぶ場のあり方も考え直さなくてはならないように感じた



デザインプロセス

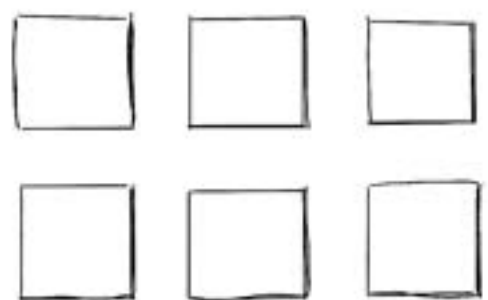
新たな学びの場のデザイン過程でスケッチを重ねていくと
ふと没案のクシャクシャの紙の山が目にとまった
その「しわ」が空間や脳の「しわ」に見えてきた



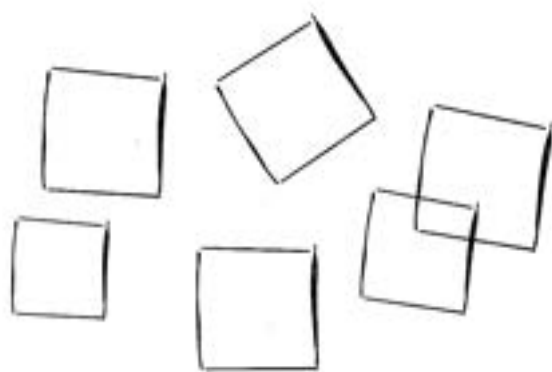
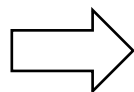
そのイメージを元にコンセプト模型を作った
紙の中を探検してみるとそこには無数の窪みが存在した

このような建築をつくれば「しわ」が自然と子供達のディスタ
ンスも保ち、各々の心の居場所もできるのではないかと考えた

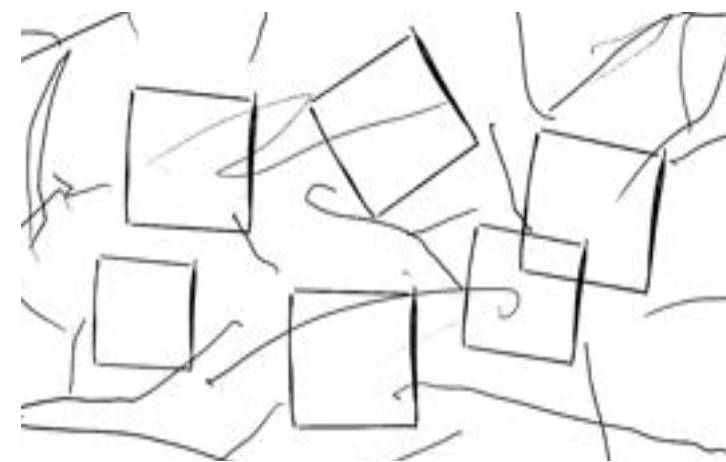
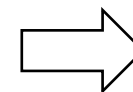
ダイアグラム



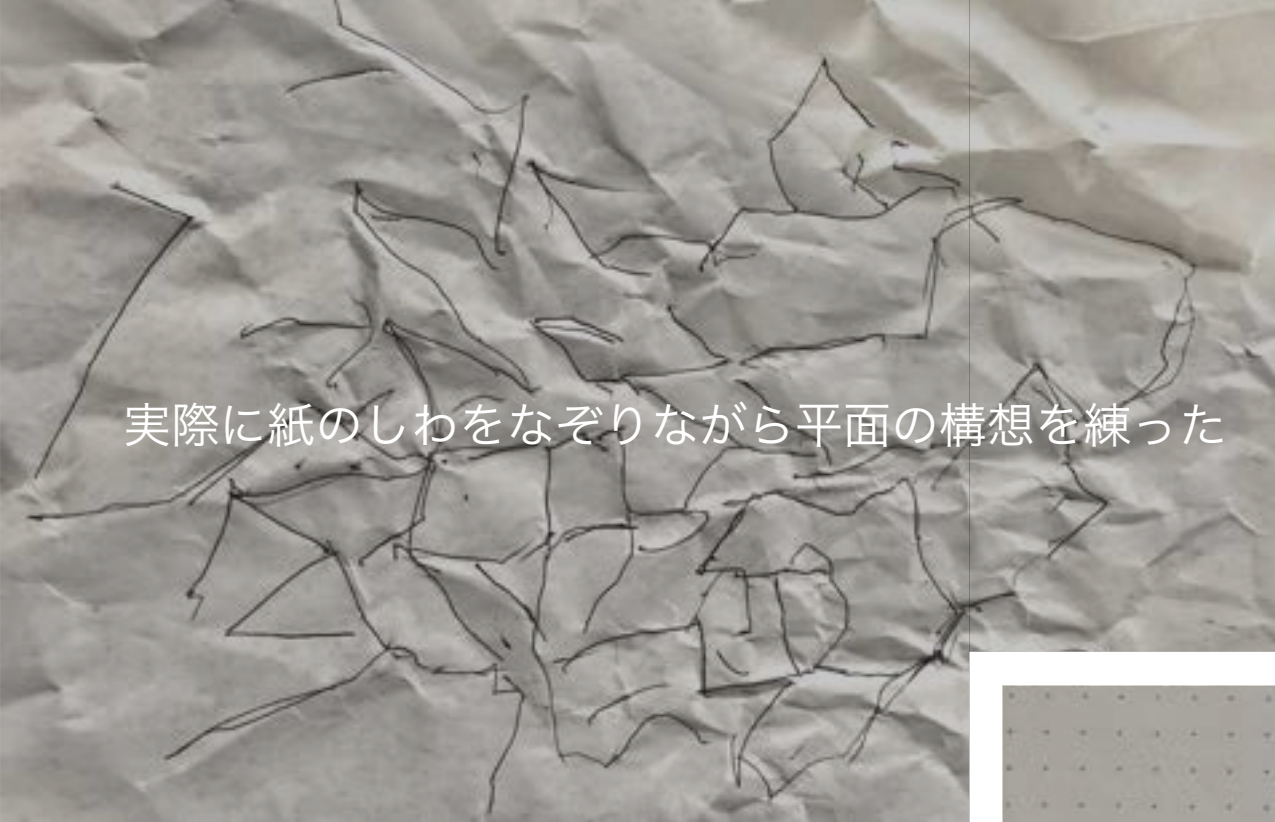
従来の画一化されたグリッド



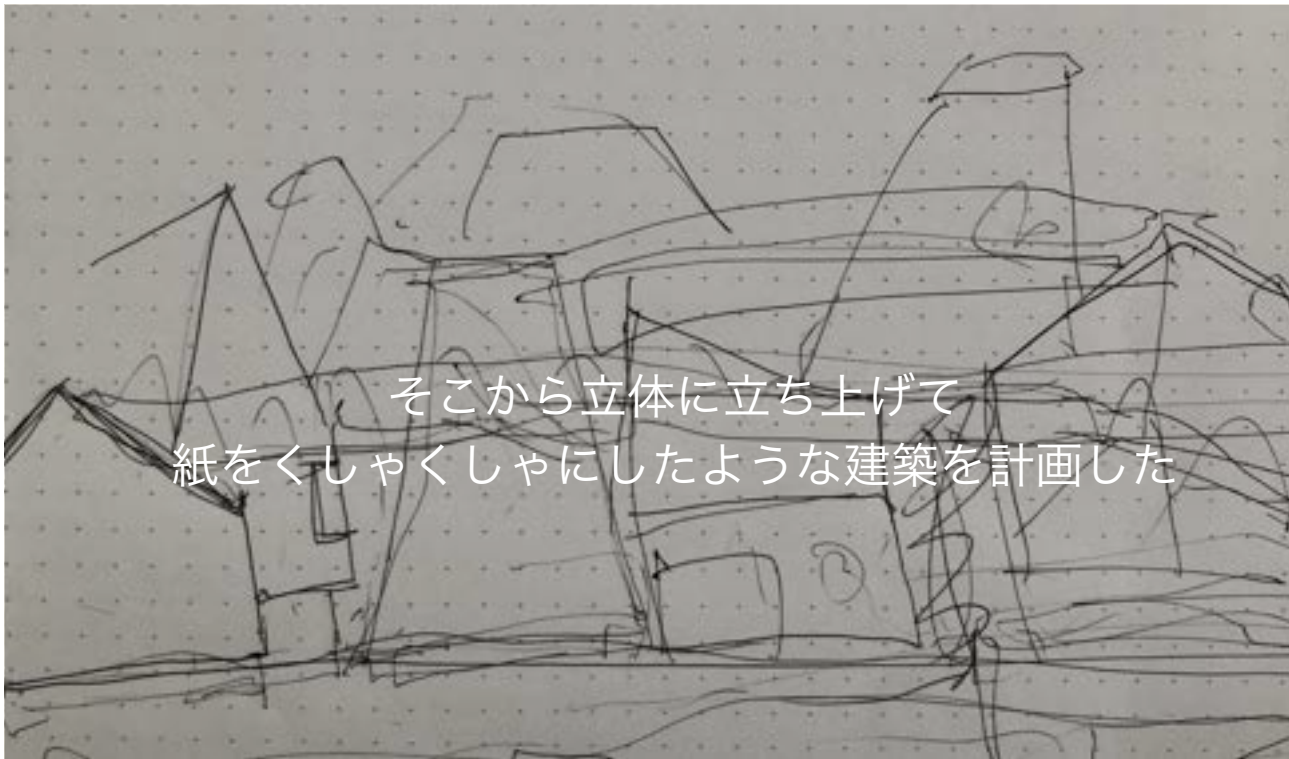
グリッドを乱す



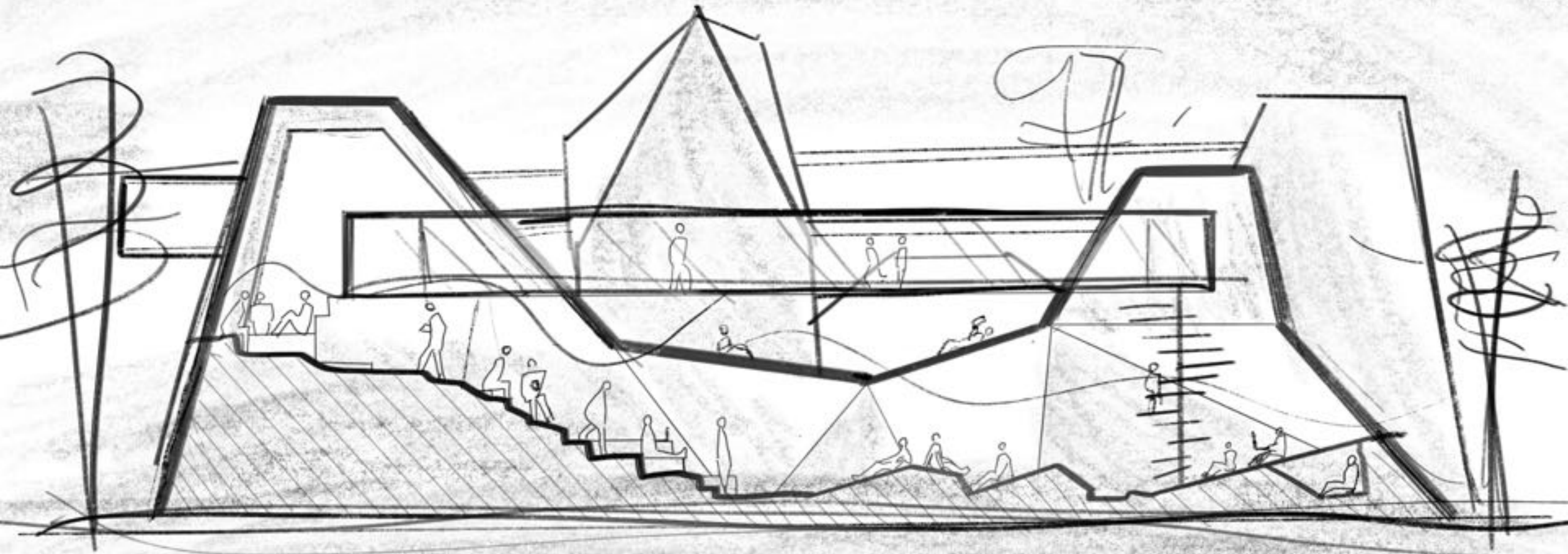
孤立した個々を「しわ」で繋ぐ



実際に紙のしわをなぞりながら平面の構想を練った



そこから立体に立ち上げて
紙をくしゃくしゃにしたような建築を計画した



GL

concept

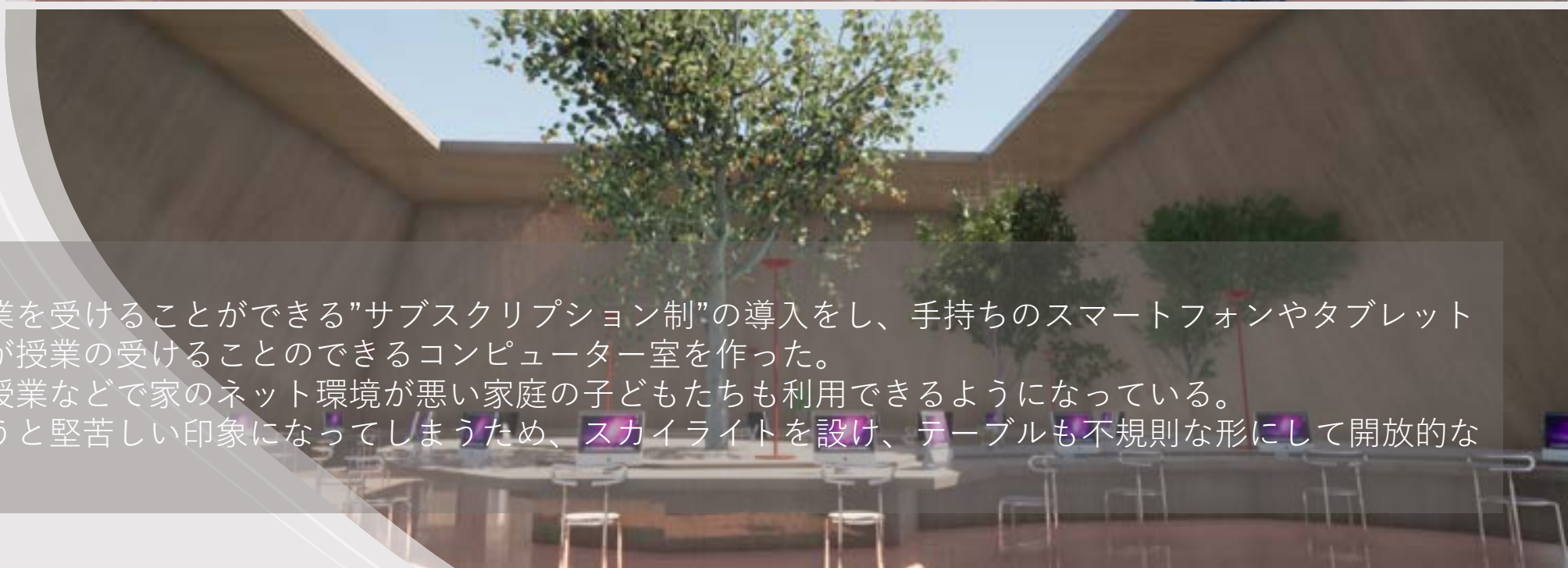
ここはいわゆる学校ではない。学校でも家でもない「サードプレイス」になるような、風と光あふれる場。今、日本に必要だと言われるイノベーションを育む、新たな学びの場を提供する。子供の脳に「しわ」が多く刻まれ笑顔になっていくような場をイメージした。





教室

色々な方向を向きながら学習できるような造作テーブルを作った。色々な方向を向くことで多様なコミュニケーションが生まれることを期待する



コンピューター室

月額定額で何度でも授業を受けることができる”サブスクリプション制”の導入をし、手持ちのスマートフォンやタブレットを持ってなくても誰もが授業の受けることのできるコンピューター室を作った。

また学校のオンライン授業などで家のネット環境が悪い家庭の子どもたちも利用できるようなになっている。

コンピューター室というと堅苦しい印象になってしまうため、スカイライトを設け、テーブルも不規則な形にして開放的な空間をイメージした。